

遊環構造を取り入れた保育園幼児の運動能力の縦断的検討

佐近慎平¹⁾

1) 新潟医療福祉大学 健康スポーツ学科

【背景・目的】田中（2009）は幼児期における運動の基本となる動作パターンの発達が未熟な子どもの増加を指摘しており、子どもの運動能力低下は幼児期から始まっていることが窺える。幼児期の運動動作の獲得には、子どもの自発的・主体的な遊びによって多様な身体活動を経験することが必要である。しかし、現在は様々な環境の変化により子どもが自由に遊べる場所や機会が失われた。先行研究では子どもたちの外遊びの減少と室内遊びの増加が多く報告されている。遊び環境の減少が子どもの動作獲得に必要な運動遊び実施の機会を失わせ、運動能力低下を引き起こしており、幼稚園や保育園の環境の重要性が増している。

【方法】対象：A・B保育園に通う園児75名、期間：平成27年4月～10月、運動能力測定項目：25m走、テニスボール投げ、両足連続跳び越し、体支持、立ち幅跳び、捕球。保護者へのアンケート。分析方法：t検定（分散が等しくないと仮定した2標本による検定）

【結果】・分析の結果、4歳児は総合得点（ $p=0.320$ ）、25m走（ $p=0.017$ ）、連続飛越し（ $p=0.151$ ）、体支持（ $p=0.047$ ）、立ち幅跳び（ $p=0.810$ ）、捕球（0.170）、テニスボール投げ（ $p=0.552$ ）で、5歳児は総合得点（ $p=0.973$ ）、25m走（ $p=0.945$ ）、連続飛越し（ $p=0.068$ ）、体支持（ $p=0.168$ ）、立ち幅跳び（ $p=0.234$ ）、捕球（0.601）、テニスボール投げ（ $p=0.509$ ）であった。

・遊環境構造型保育園の方が一般型保育園よりも運動能力が高く、差は4歳児で顕著だった。

・しかし、連続飛越しは4歳児、5歳児ともに一般型保育園の方が運動能力が高かった。

【考察】遊環境構造型保育園には園児が走り回れるような回遊できる構造と日頃から腕力やバランス力を使うように工夫された構造がある。

測定結果を縦断的に検証する。遊環境構造型保育園において、4歳児は保育園新築に伴い遊環境構造が取り入れられた園に移動し、半年後の測定で25m走と体支持は同園5歳児と同等かそれ以上の結果を記録し、他の測定結果でも運動能力が高いことが検出された。遊環境構造が園児の主体的・自発的な運動遊びを誘発し、運動動作獲得の機会や身体活動量の増加を促進させたことで、運動能力向上を及ぼしたと考えられる。

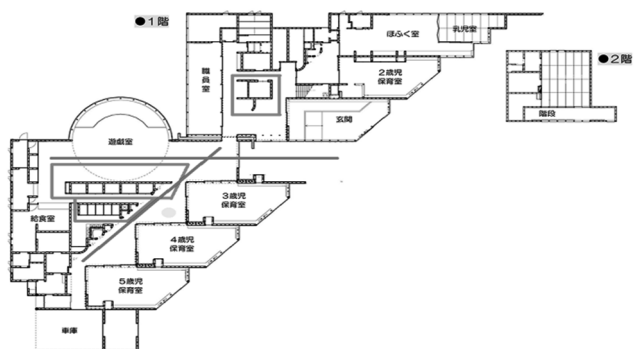
表 1. 運動能力測定縦断的研究

	4歳児			5歳児	
	遊環構造あり		遊環構造なし	遊環構造あり	遊環構造なし
25m走	2014.9			6.89±0.59	6.85±0.91
	2015.4	6.72±0.82	7.42±0.80	6.48±0.61	7.14±1.14
	2015.9	6.73±0.88	7.54±1.14	6.63±0.89	6.63±0.62
テニスボール投げ	2014.9			3.73±1.36	3.43±0.76
	2015.4	4.39±1.73	4.39±1.63	4.78±1.74	4.47±2.76
	2015.9	4.57±1.81	4.71±2.27	6.69±2.56	5.61±2.25
連続跳び越し	2014.9			5.44±0.50	5.84±0.76
	2015.4	7.26±2.06	6.21±0.58	5.08±0.44	5.25±0.88
	2015.9	6.75±1.73	5.73±0.53	5.28±0.73	4.93±0.75
体支持	2014.9			23.45±12.77	20.32±19.28
	2015.4	43±31.21	22.08±9.33	44.77±17.86	45.95±35.88
	2015.9	53.63±29.20	31.05±20.03	71.15±38.59	44.22±33.60
立ち幅跳び	2014.9			83.23±18.81	79.67±23.96
	2015.4	82.63±20.14	88.47±17.90	98.31±16.75	95.82±21.00
	2015.9	92.5±17.85	87.57±17.86	107±12.85	105.39±15.51
捕球	2014.9			6.08±1.98	5.57±2.04
	2015.4	4.81±2.06	4.44±1.94	6.77±2.57	7.23±2.48
	2015.9	6.19±2.23	4.6±2.28	7.08±1.71	6.22±2.78

【結論】本研究は遊環境構造が幼児の運動能力に及ぼす影響を以下の3点をもって結論とする。

- 1) 遊環境構造型と一般型の保育園の運動能力を比較した結果、遊環境構造型の園児の25m走と体支持に有意差が検出された。
- 2) 遊環境構造型保育園は主体的な運動遊びを促進・誘発し、4歳児の運動能力は向上させたが、5歳児には園舎の広さなどが適切ではなく運動能力に影響を及ぼさなかった。
- 3) 幼児期の運動能力向上に遊環境構造は効果的だが、年齢に見合った適切なサイズが必要であり、ない場合は体育館や公園など広い場所で定期的な運動遊び実施の機会を設ける必要がある。

図 1. 遊環境構造を持つ保育園の平面図



【引用・参考文献】

- 1) 田中沙織：幼児の運動能力と基本動作に関する研究～自由遊びに見る運動能力別の基本的運動動作比較の試み～，2009。
- 2) 仙田満：4 子どもの育成環境と遊環境～遊び場を創る～，2009。
- 3) 森ら：幼児の運動能力における時代推移と発達促進のための実践的介入，2011。